



「新たな知の地平を拓く」
京都大学 附置研究所・センター
17 Research Institutes and Centers
Kyoto University

京都大学 附置研究所・センター シンポジウム

京都からの提言

21世紀の日本を考える(第1回)

平成18年3月16日 [木]

10:00-17:30

東京・品川インターシティーホール
(JR品川駅東口徒歩5分 <http://www.sicity.co.jp/>)

[主催] 京都大学 附置研究所・センター

[後援] 読売新聞社

プログラム

10:00-10:20

「主催者挨拶」

10:20-12:20

「危機をいかに乗り切るか？」

「首都直下地震の被害と減災戦略」

河田 恵昭 (防災研究所 所長)

「日本の『構造改革』— 何処をどう変えるべきか」

佐和 隆光 (経済研究所 所長)

14:00-16:00

「東アジアといかに向き合うか？」

「東アジアの共同体は可能か? — 日・中・韓三国の歴史問題をめぐって」

金 文京 (人文科学研究所 所長)

「躍動するアジアと21世紀の日本—日本はアジアを越えられるか」

濱下 武志 (東南アジア研究所 教授)

16:20-17:30

パネルディスカッション「東アジアと日本」

コーディネーター: 田中 耕司 (東南アジア研究所 所長)

ゲストパネリスト: 清川 雪彦 (一橋大学経済研究所 教授)

齋藤 治 (読売新聞社調査研究室 研究員)

パネリスト: 河田 恵昭

佐和 隆光

濱下 武志

金 文京

浅田 彰 (経済研究所 助教授)

参加お申し込み

参加ご希望の方は、「お名前」「住所」「年齢」を明記の上、
下記宛に郵便、e-mailまたはファックスでお申し込みください。

◎ 先着500名 (入場無料)

◎ 申し込み締め切り日: 平成18年3月6日 [月] 必着

◎ 申し込み先

〒605-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学「京都からの提言」事務局

e-mail: kyoto316@kurims.kyoto-u.ac.jp

FAX: 075-753-7276

*参加者の情報は、適切に保護し、本シンポジウムの開催、
受付の目的以外には利用いたしません。

危機をいかに乗り切るか?

東アジアといかに向き合うか?

京都からの提言－21世紀の日本を考える(第1回)

講演者および講演要旨



河田 恵昭
防災研究所
所長

「首都直下地震の被害と減災戦略」

首都直下地震の被害と減災戦略：今後 30 年以内の発生確率が 70% の首都直下地震は、経験的にはいつ起きてもおかしくないと言える。この震災の被害概要と政府・自治体が進めなければならない減災戦略や一人ひとりがいかにして被害に遭わないようにしなければならないかを生活文化、企業文化などの観点から紹介する。



佐和 隆光
経済研究所
所長

「日本の『構造改革』—何処をどう変えるべきか」

日本の「構造」が特異（ユニーク）であることは、かねて指摘され続けてきた。1980 年代後半から 90 年代初頭にかけての頃、「特異な日本型構造を世界の国々は模範とすべきである」との言説が幅をきかせた。ところが、91 年に始まる日本経済の長期低迷は「日本の構造を米国（市場主義）型に改革することが必須である」との世評が定着するようになった。市場主義改革は必要ではあるが十分ではない。必要にして十分な改革とは何なのかを問う。



金 文京
人文科学研究所
所長

「東アジア共同体は可能か？

—日・中・韓三国の歴史問題をめぐって—

グローバル化と地域統合の中、急速に浮上してきた東アジア共同体構想、その鍵を握るのは鋭く対立する日中関係、なかならず靖国問題であるかのように見える。しかし靖国問題の背景には千年におよぶ日本・中国・韓国の歴史がある。邪馬台国から明治維新まで日本をめぐる東アジア国際関係の構造から未来を展望する。



濱下 武志
東南アジア研究所
教授

「躍動するアジアと 21 世紀の日本

—日本はアジアを越えられるか—

アジアの動きから目を離せない毎日であるが、「アジア」はいっそう多様・多相であり、多面的な地域間関係を示している。日本は、これまで、「アジアの中の日本」「アジアと異なる日本」さらに、「アジアとしての日本」など、アジアとの係わりで多様な位置づけを行ってきた。しかし、21 世紀の日本は、アジアのメンバーとしての役割を強く意識し、新たなアジアを共に創るという課題を負っていると思われる。

パネルディスカッション参加者



コーディネーター
田中 耕司
東南アジア研究所
所長



ゲストパネリスト
清川 雪彦
一橋大学経済研究所
教授



ゲストパネリスト
齋藤 治
読売新聞社調査研究室
研究員



パネリスト
浅田 彰
経済研究所
助教授

パネリスト

河田 恵昭 / 佐和 隆光 / 濱下 武志 / 金 文京

プログラム

午前司会：大串 隆之(生態学研究センター長)

10：00 尾池 和夫 京都大学総長 挨拶

芦立 訓 文部科学省学術機関課長 挨拶

松本 紘 京都大学研究担当理事 挨拶

午前のテーマ：危機をいかに乗り越えるか？

10：20 「首都直下地震の被害と減災戦略」

河田 恵昭(防災研究所 所長)

11：20 「日本の『構造改革』—何処をどう変えるべきか」

佐和 隆光(経済研究所 所長)

(12：20－14：00 昼食休憩)

午後司会：高橋 陽一郎(数理解析研究所 所長)

午後のテーマ：東アジアといかに向き合うか？

14：00 「東アジア共同体は可能か？

— 日・中・韓三国の歴史問題をめぐって—

金 文京(人文科学研究所 所長)

15：00 「躍動するアジアと 21 世紀の日本

— 日本はアジアを越えられるか—

濱下 武志(東南アジア研究所 教授)

(16：00－16：20 休憩)

16：20 パネルディスカッション「東アジアと日本」

コーディネーター：田中 耕司(東南アジア研究所 所長)

ゲストパネリスト：清川 雪彦(一橋大学経済研究所 教授)

齋藤 治(読売新聞社調査研究室 研究員)

パネリスト：河田 恵昭・佐和 隆光・濱下 武志・

金 文京・浅田 彰(経済研究所 助教授)

17：30 閉会挨拶 代谷 誠治(原子炉実験所 所長)

主催：京都大学附置研究所・センター

化学研究所

人文科学研究所

再生医学研究所

エネルギー理工学研究所

生存圏研究所

防災研究所

基礎物理学研究所

ウイルス研究所

経済研究所

数理解析研究所

原子炉実験所

霊長類研究所

東南アジア研究所

放射線生物研究センター

生態学研究センター

国際融合創造センター

地域研究統合情報センター(平成 18 年 4 月設立予定)

